

## 自然共生の智慧の再興・発展（その1）



古くから住民の入会により共同管理される阿蘇の草原



漁業者による資源の共同管理



日本の国立公園は、国民の財産であるとともに、地域の重要な観光資源でもある。

我が国には、地域の資源利用者が共同で自然資源の管理を行う伝統的な社会システムが存在。現在でも入会権、共同漁業権等が、法律上の権利として認められている。

伝統的な自然資源管理に加え、国家的観点からの自然環境の保全等を行う手段として、国が土地を専有せずに区域を定めて指定し、多様な主体の協働により保護を図る国立公園等のシステムを整備してきた。

### 日本型国立公園とアメリカ型国立公園

古くから伝統的な自然資源管理が行われてきた日本では地域指定制の国立公園制度を発達させてきた。一方、アメリカ等では、区域内に集落地の存在を前提とせず、国が土地を専有する国立公園制度を導入している。アジア諸国では、原生自然から里地里山に至るまで多様で美しい自然環境を有し、地域と共存する日本型国立公園制度への関心が高まりつつある

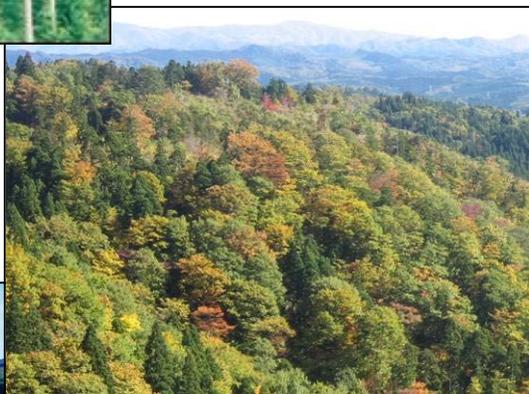
# 自然共生の智慧の再興・発展（その2）



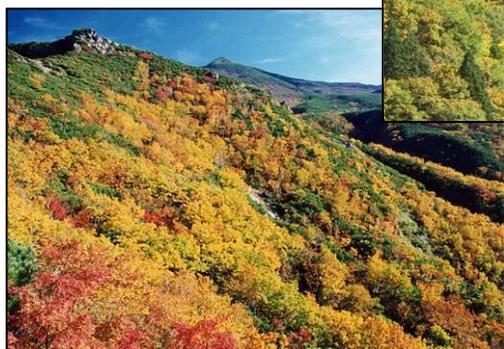
人工林



海岸林



針広混交林



貴重な森林生態系(知床保護林)

我が国は、1億の人口がある先進国でありながら国土の3分の2が森林で覆われる世界有数の緑豊かな森林国。長い年月をかけて森林を整備・保全し、その多様な恵みを暮らしの中に活かしている。

例えば、海岸沿いの松林、スギやヒノキ等の人工林、多様な樹種で構成される針広混交林、知床等の原生的で貴重な天然林のように、ニーズに応じて多様な森林が整備・保全されている。

日本では、国や自治体、所有者、そして地域住民等が、森林計画や保安林等の制度のもと、緑の社会資本の整備や林業、環境教育など多様な形で森林に関わることにより、多様な森林を維持していく社会システムが形成されている。

# 自然共生の智慧の再興・発展（その3）

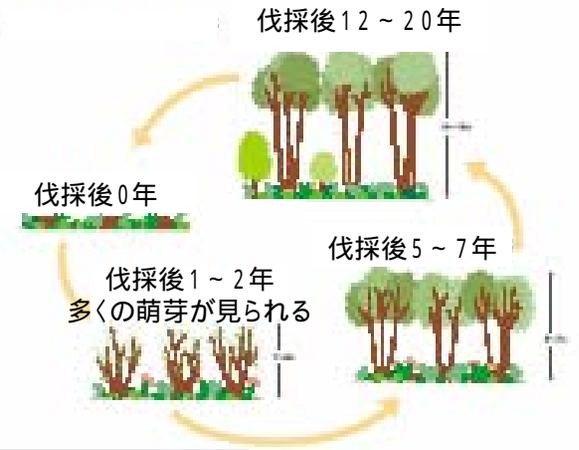
## SATOYAMAイニシアティブ

### 里地里山

— 伝統的な自然共生の智慧 —

自然を尊重し、共生することを常とする自然観  
自然をうまく利用しながら培ってきた知恵と技術  
地域共同体による共同作業やルール

雑木林の持続的利用のイメージ



かつて、持続的な資源管理、循環型社会、自然共生社会を実現

世界に提案

## 「SATOYAMAイニシアティブ」

世界各地の  
伝統的な  
自然共生の智慧

+

現代の知識や技術



バイオマス・エコツーリズムなど

新たな共同体の構築

都市住民や企業などの参画

=

世界各地の  
自然・社会条件を  
尊重した自然共生社会